

秋田県教育研究会  
秋田県造形教育研究会



2012.3

NO.48 (平成23年度)

造形 秋 田





## 今年度を振り返って

秋田県造形教育研究会  
会長 芦原清巳

### ◇活気！やる気！ 第64回全国造形教育研究大会北海道大会（札幌市）

7月27日、28日に北海道札幌市で全国造形教育研究大会が開催された。全国から約1000名の造形関係者が集まり、市内2会場で授業者数総勢20名という近年にない大規模な大会となった。4年前までは道内で19地区の造形サークルが活動しており、一つの組織としてはまとまっていなかったそうだが、各地区造形サークルの若手研究部長を中心に19地区支部がインターネットを介し、数年でまとまったとのことである。テーマ「わたしを創る～自立と共生の造形教育をめざして～」のもとに自分の価値を見だし、人とつながるといふ、まさに「生きる力」に集約される研究内容であった。若手の授業者が多いためか、実にフレッシュで、荒削りながらも子どもとのコミュニケーションもしっかりとられ、元気のある授業であった。大会要項の他に道内19地区支部がまとめたカラー刷りの実践事例集が配られ、内容も素晴らしく、道内一丸となった図工・美術教師の意気込みが感じられた。全体的に教師の情熱があふれる、活気ある大会であった。

### ◇旬の造形教育！ 第44回秋田県造形教育セミナー

7月29日、アトリエももさだを会場に県内から約70名の先生方が集まり、千葉大学教授佐々木達行氏を講師にお招きし、講演と実技研修を行った。内容は「造形の教育」から「造形を通じた教育」への展開と広がり、子どもたちに将来、精神的、人間的な自立を促し「生きる力」をつけるというものであった。実技研修では同じ題材で教師主導型と児童生徒中心型の2通りの授業デザインでの実践を試みた。これからの造形教育は教師主導型から児童生徒中心型の授業デザインを重視し、知識・技術の教えとともに、子どもたちの感覚、感性、発想力、構想力などを育てるための仕掛けが必要であり、子どもたちに自主的、主体的に活動させるプランの組み立てが最重要であるということ学んだ。普段から先生方が少なからず実践している内容ではあるが、改めて体系的に理論づけ、スッキリとまとめていただき、今後の造形教育の方向性を確認することができた有意義な研修となった。

### ◇熟練の技！ 第56回東北造形教育研究大会山形大会（寒河江市）

大震災後の狭間の中、いろいろな迷いの中で東北各地からは是非開催してほしいという声上がり、8月3日、山形県寒河江市で東北造形教育研究大会が開催された。暑い中、東北各地から約300名が参加し、授業者数10名を立てての大会であった。地方都市での大会であり、本県と同様に少子高齢化が進み、授業者はベテランの布陣であった。「わたし色の結晶～ともに喜び花開く造形教育をめざして～」をテーマに「つながり」をキーワードとして校種間、子ども同士、社会とのつながりを重視した研究であった。公開授業は小・中学校ともオーソドックスな内容であったが、そつなくまとめられ、見ていて安心感のある授業であった。地区エリアとしてはコンパクトな大会であったが、会場が分散化されバス移動が多く、運営に支障をきたす場面もあったように感じられた。

### ◇作品の質がパワーアップ！ 第52回秋田県児童生徒美術展

12月23日、全県から1266点の作品を集め、県審査を行い、推賞125点、話題作38点を選出した。ここ数年、作品の質がパワーアップしているように感じる。各郡市でのまとめや先生方の意気込みが伝わってくる。現在では郡市予選を行い、県審査では推賞と話題作を選出することが当たり前になっているが、振り返ると十数年前に郡市で審査を行おうという声各郡市から上がり、当初、郡市内入賞数の3分の1を郡市で審査、選出し、残り3分の2を県審査で選出するという非常に煩雑な審査を数年間行い、やっと現在のシステムに至った経緯がある。それより以前の県内全作品審査の頃は、附属小等を審査会場に夜遅くまでかかっていた時代があったが、今では郡市で入賞審査を行い、推賞、話題作のみ県審査となり、半日で終了するまでに至っている。

### ◇「生きる輝き、つくる喜び！」 第57回東北造形教育研究大会秋田大会

秋田市を会場に平成24年7月27日に東北大会が開催される。秋田市造形研が着々と準備を進め、ようやく全体像が見えてきた。講師には秋田蘭画研究の第一人者である今橋理子学習院女子大学教授を予定している。小・中学校の授業者候補も決まり、授業会場は付属小・中学校で行い、全体会場は安藤忠雄氏設計の新県立美術館の隣の施設、「にぎわい交流館AU」で行うことができる運びとなった。新県立美術館の開館は1年遅れとなったが、大会当日、美術館内の研修室が分科会会場として使用できる見込みである。テーマ「生きる輝き、つくる喜び～内面から湧きあがる造形活動をもとめて～」のもとに「オール造形秋田」体制では是非とも大会を盛り上げ、成功させたいものだ。全国大会北海道大会のように子どもと教師がつながり、活気あふれる、輝きに満ち溢れた大会を目指したい。

# 造形 秋 田

No.48

## 目 次

巻頭言 今年度を振り返って	
各郡市造形教育研究会の活動報告	1
第52回 秋田県児童生徒美術展	11
第52回 秋田県児童生徒美術展 話題作一覧 (平面の部)	12
研究の記録	
第44回秋田県造形教育セミナー	19
講演 演題「人間教育としての図画工作・美術科授業の創造」	20
実技研修会A	21
実技研修会B	22
実技研修会C	23
東北造形教育研究大会に参加して	24
造形遊びを楽しむ ～全国図画工作科研究大会in北海道に参加して～	25
平成24年度 第57回東北造形教育研究大会秋田大会	
第39回秋田県造形教育研究大会秋田市大会に向けて	28
平成23年度 秋田県造形教育研究会役員	29

表紙絵 男鹿のなまはげ  
大沢 涼太 (米内沢小学校)

---

## 各郡市造形教育研究会の活動報告

---

組織 会長 石岡 ひな子 (尾去沢小学校校長)  
副会長 永井 孝久 (小坂中学校教頭)  
事務局 海沼 智恵子 (尾去沢小学校)  
会計 海沼 智恵子 (尾去沢小学校)

## 主な事業

平成23年度総会 (花輪第一中学校) 4/22

第44回秋田県造形教育セミナー  
ー造形教育を通じた人間教育ー 7/30

県児童生徒美術展鹿角審査会  
(花輪市民センター) 11/21

鹿角小中高合同美術展  
(花輪市民センターホール) 1/14~1/18

## 研究会の記録

- ・今年度は、鹿角中学校授業研究会で美術が割り当てられたが、会場校では他校と兼務の非常勤講師しかおらず、当日は研究授業を行わず参加者4名が「地域素材を活用した授業例」を持ち寄り協議を行った。パソコンで地域素材を見合ったり、他教科・領域との関連について情報を出し合ったりして十分に話し合いがなされ、指導者からも貴重な助言をいただくことができ有意義な研究会となった。
- ・県の造形セミナーには中学校から1名が出席した。コース別研修では、割り箸を使った作品制作を通して、2通りの「授業デザイン」の方法について学ぶ機会となった。小・中学校とも夏休み中とはいえ、学校行事等多忙な時期で、参加者が少なかったことは残念であった。
- ・全県児童生徒美術展では、県出品作品のうち話題作3点を含む合計8点が推賞となり、予想以上の成績を収めたことはとても喜ばしい結果であった。作品を持ち帰り、他の作品と共に開いた郡市美術展では、会期が冬休み中だったため広報不足もあってか、観客が例年を下回ってしまった。展示作業では会員である小坂中永井教頭を講師に、「絵を見合う会」を開催し、各校からの展示協力者と共に絵画指導の学習会として好評であった。来年度以降もぜひ継続していきたい。



鹿角小・中・高合同美術展、展示作業後に開催した「絵を見合う会」の風景

(1/13 花輪市民センター)

組織 会長 木村 伸 (大館東中学校教頭)  
 副会長 金澤 裕子 (大館南中学校教頭)  
 本間 いま子 (鷹巣南小学校教諭)  
 事務局 鈴木 正樹 (鷹巣中学校教諭)  
 会計 松田 由佳 (合川中学校教諭)

## 主な事業

大館北秋田総会 (鷹巣中学校)  4 / 14	実技研修会 浄法寺漆器見学及び蒔絵体験 福田繁雄デザイン館見学  8 / 12
秋田県児童生徒美術展地区審査会 素描集「北の造形」第44集審査会 (田代公民館)  11 / 25	第33回 絵を見て語る会 (田代公民館)   1 / 18
素描集「北の造形」第44集発刊配布  1 / 18	理事会 (鷹巣中学校)   1 / 18

## 研究会の記録

大館北秋田造形研では、隔年で実技研修会を開催しています。今年度は、青森県二戸市にある福田繁雄デザイン館と浄法寺を訪れました。その様子を紹介します。

午前中に訪れた福田繁雄デザイン館は、常設のものとしては日本唯一の展示館です。錯覚や錯視による視覚トリックを利用したポスターや立体作品が所狭しと展示されています。エッシャーの作品を立体的に再現したオブジェや、スプーンやフォークの塊がなぜかオートバイに見える視覚トリック作品など、今でも新鮮な驚きに満ち溢れた福田ワールドを堪能し、参加者一同時間を忘れて鑑賞することができました。世界的にも有名な福田繁雄の作品を、こんなに身近に存分に楽しむことができる施設があることに、驚きとともに誇りを感じました。

午後は、同じく二戸市の浄法寺を訪れました。浄法寺は漆の里と呼ばれ、国産漆のうちの約6割を生産しています。見学した「滴生舎」は、浄法寺の漆を使った漆器や漆芸品だけを厳選し、展示販売している施設です。漆絵付体験教室に参加した私たちは、コースターや箸に思い思いのデザインを描き入れ、まさしく創造の喜びを体感しました。日本の伝統的な工芸材料である漆も、素人には手が出しづらいものです。かぶれ防止のために薄手のゴム手袋を着用し、心地よい緊張感の中、濃密な時間を過ごしました。滴生舎でゆっくりと乾燥させた作品は、後日郵送されてきました。出来上がった作品を受け取ったとき、大きな喜びを感じることができました。

こんな喜びを子どもたちにも味あわせたい。そんな思いを大切にして、これからも本研究会は、一層の研究に励んでいきます。

組織 会長 渡邊清彦 (朴瀬小学校)  
 副会長 田中範子 (向能代小学校)  
 会計監査 田森舞 (能代第一中学校)  
 事務局 渡部悦子 (能代第二中学校)  
 理事 青山則子 (能代第一中学校)  
 田中絵里奈 (二ツ井中学校)  
 岩谷修一 (藤里中学校)  
 芹田亨 (東雲中学校)

長浜笑子 (八竜中学校)  
 芹田亨 (東雲中学校)  
 越前芳広 (第四小学校)  
 工藤秀樹 (浜口小学校)  
 珍田和佳子 (二ツ井小学校)  
 小森哉子 (藤里小学校)

## 主な事業

○夏季研修会

「和菓子職人に学ぶ造形活動」

7/26

○授業研究会

「海の国の王様」多色版画 (小4)

7/15

○全県児童生徒美術展審査会

12/8

## 研究会の記録

### ○夏季研修会

能代市在住の和菓子職人を講師に招き、「和菓子職人から学ぶ造形活動」をテーマに、本物の和菓子作りを研修した。

初夏の季節感を表現した6個の和菓子を制作した。和菓子工芸とも言われる和菓子作りには、造形教育に活用できる要素がたくさんあり、学ぶことも多い。日本の伝統美と現代の造形教育の結びつきを考えさせられる研修になった。

### ○授業研究会

能代市立向能代小学校にご協力を頂き、題材名を「海の国の王様」として、版画の授業を行うことができた。

授業は、言語活動活性化を意識した内容で、児童は、友達と話し合いながら、個のイメージに合うように紙版を置く場所を模索していた。指導者は、一人一人の児童が発言しやすくなるように、具体的イメージが湧くような発問をしていた。今後の造形教育における言語活動の活性化を推進していく上で、意味深い授業研究会となった。協議会では、協議の視点を「子どもがイメージをつかみとる支援の工夫」「子どもが自主的に活動するための支援について」として、活発な討議が行われた。

おわりに

造形部会内に研修班を設けて、今年は3年目。研修班の活動内容が確立し、研修の深まりを感じる。次年度も、子どもが感性を働かせ、生き生きと活動できる授業の在り方を研修していきたい。

(研修班 東雲中学校教諭 芹田 亨)



組織 会長 桐生 登志夫 (北陽小学校)  
副会長 田沼 隆夫 (五里合小学校)  
事務局 伊藤 覚 (男鹿南中学校)

## 主な事業

造形部総会 (4/13)

男鹿市児童生徒美術展審査会 (11/30)

男鹿市児童生徒美術展 (12/1～12/14)

## 研究会の記録

(1) 研究主題 生き生きとした造形活動をめざして

(2) 活動の概要

### ① 男鹿市児童生徒美術展審査会

男鹿市ハートピアギャラリーを会場にして、作品審査会を行った。平面作品155点、立体作品31点の出品であった。今年度も、全ての小・中学校からの出品がなされた。平面作品の中から1点ずつ、男鹿市としての話題賞を選出した。こどもの感じ方を第一に語りながら、思いがよく伝わってくるもの、発想と技法のバランスがよいもの、ふるさと感じさせる題材について、造形部員全員が互いに意見を出し合った。児童生徒の表現意図や、筆遣い・できばえを語り、感性を認め合った。また、画面構成や色のバランスの分析を通して、指導技術の情報交換もなされた。指導者として様々な表現方法を模索しながら、生徒の制作意欲を高め、イメージを広げさせる提示の工夫を考える上で、有意義なひとときとなった。終始和やかな雰囲気の中で審査を行い、考えるための視点を交換し、研修を深めることができた。

### ② 男鹿市児童生徒美術展

午後からの審査会后、直ちに展示作業に入り、夕刻に完了。翌



日からハートピアギャラリーで男鹿市児童生徒美術展を開催した。気候の急変、寒波にかかわらず、我が子の作品を一目見ようという参観者が多数訪れた。多くの作品を前にして、感慨を語る様子が見られた。





組織 会長	長 浜 中 (馬場目小学校)	
副会長	秋 元 謙 逸 (天王中学校)	
運営委員	伊 藤 晃 (井川小学校)	伊 藤 忠 宏 (五城目小学校)
	石 塚 博 子 (八郎潟中学校)	近 江 和佳子 (羽城中学校)
事務局	都留賀 津 人 (天王南中学校)	

## 主な事業

・総会	4/14(木)	・運営委員会	5/20(金)
・夏休み造形教室	8/5(金)	・実技研修会	9/7(水)
・子どもの絵を語る会	12/1(木)		

## 研究会の記録

(1) 研究主題 よろこび・わくわく 新たな発見 ～キラリ感じてつくる子ども～

(2) 活動の概要

### ① 夏休み造形教室

- ◆会場 五城目町野鳥の森
- ◆内容 木の実、木の枝などを使ったオブジェの制作
- ◆対象 潟上・南秋地区の小学生
- ◆所感 自然豊かな環境のもと、学校ではなかなか得られない子どもの興味を引く豊富な自然素材と充実した工具、造形部員のアドバイスがあり、子どもたちが材料から豊かに発想したり、発想を生かした作品作りを楽しんだりすることができた。

### ② 教科等研究会

- ◆会場 潟上市立天王南中学校
- ◆講師 秋田県立近代美術館  
学芸主事 田村 稔 先生
- ◆内容 色・形への理解を深める指導の工夫
- ◆所感 講義では新学習指導要領の改定内容と評価の考え方について確認することができた。実技



研修ではオリジナル教材の体験を通じた紹介をしていただいた。今後の教科経営、授業に直接生かせるヒントを多く含む内容であった。授業に生かして児童生徒の感性を伸ばしていきたい。

### ③ 子どもの絵を語る会 (秋田県児童生徒美術展地区審査会)

- ◆会場 潟上市昭和公民館
- ◆内容 県児童生徒美術展の作品審査と、子どもの絵の見方研修
- ◆所感 会員相互の対話を通して、これまでの経験を生かしたり、会員自らの目を信じたりして審査を行うことができた。また、子どもの絵を通し、絵のとらえ方や指導技術の情報交換など、審査の枠を越えた話し合いも自然になされ、会員同士納得のいく審査であった。

組織 会長 佐藤 一彦 (秋田北中学校)  
 副会長 加藤 義昭 (川添小学校)  
 小松 文子 (飯島小学校)  
 榎 美和子 (桜小学校)  
 事務局 中村 紀幸 (勝平中学校)  
 菊地 有希子 (泉小学校)  
 幹事 小林 さおり (秋田東中学校)  
 会計 松田 由紀子 (外旭川小学校)

黒沢 淳 (泉小学校)

伊藤 知佐子 (土崎中学校)

## 主な事業

鑑賞研修会 コレクション展  
 「美術館へ花を観に」を鑑賞する  
 (千秋美術館/5月25日)

大森山動物園  
 第34回親と子のふれあい写生大会  
 (大森山動物園と共催/7月23・24日)

全市一斉授業研究会 (中学校)  
 桜中 佐藤 未樹先生 10月26日

全市一斉授業研究会 (小学校)  
 外旭川小 松田由紀子先生  
 泉小 黒沢 淳先生  
 仁井田小 石川 未加先生  
 3会場3分科会で実施 11月16日

秋田県児童生徒美術展秋田市審査  
 (外旭川中学校/12月3日)

東北造形教育研究大会準備会議  
 (秋田市教育研究所/2月8日)

クロッキー巡回展 : 市内各小学校  
 (審査: ジョイナス/12月23日)

## 研究会の記録

全市一斉授業研究会 (中学校)

### 箱の中の世界

導入で即興的に箱の中になにかを表現してみるプレ制作を行った。参考作品を鑑賞する導入とは違い、意欲付けにつながっていた。  
 桜中 佐藤 未樹先生

全市一斉授業研究会 (小学校)

### どうぶつたちと わくわくランドへ レッツ ゴー!

紙の空き箱を主材料にして好きな動物をつくったり、動物が遊ぶ場所をみんなで作ったりして楽しんだ。意欲を持たせ持続させるための場づくりが適切であった。  
 外旭川小 松田由紀子先生

### くるくる丸めて楽しんで

丸めた新聞紙の形を変えることや、協力して場所の感じを変えることを楽しんだ。教師の言葉がけが子どもを考えを引き出し、制作意欲を高めていた。  
 泉小 黒沢 淳先生

### 絵ともっとなかよしになろう

具象的な風景の中に巨大な動物が描かれている幻想的な作品を鑑賞した。作家の話を聞く時間もあり、本物に触れることのよさが感じられた。  
 仁井田小 石川 未加先生

## 授業力向上研修会

平成22年度小学校図画工作科特別研修「新しい造形体験」

東京都ギャラリーTOM副館長 岩崎 清先生の指導を受けての実践発表

おもしろカラフルスーツを作ろう (1年生)

秋田東中 小林さおり先生

印刷済みの紙とカラーガムテープを使い、体に巻き付けて等身大のスーツを制作した。数人が協力しながら活動を楽しむ様子を体験し、時間を忘れて取り組んだ。

組 織	会 長	三 保 知 子	(上 浜 小 学 校)
	副 会 長	石 井 真 理 子	(象 潟 中 学 校)
		赤 川 祐 輝	(本 荘 北 学 校)
	事 務 局	安 保 純	(仁 賀 保 中 学 校)
	研 究 部 長	菊 地 邦 彦	(矢 島 中 学 校)
	運 営 委 員	大 坂 由 記	(亀 田 小 学 校)
		笠 原 真 奈 美	(本 荘 南 中 学 校)
		木 内 衛	(本 荘 東 中 学 校)
	会 計	宮 田 幸 江	(子 吉 小 学 校)

## 主な事業

平成23年度造形部総会	造形部研修会	12/5
本荘由利児童生徒美術展	11/18～21	その他 本荘由利小中学校の図工・美術の研究授業への参加

## 研究会の記録

### 1. はじめに

各校の教科研究の中で造形部員がそれぞれ研修を進め、地区の研究会などで実践や児童生徒の作品を発表し合い研究を深める。また、教科別研究集会や夏期研修、研究部会、児童生徒美術展、秋田県児童生徒美術展の平面審査への参加など様々な形で積極的に研修を持つ。

特に児童生徒美術展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う場となっており、より幅の広い意味での情報交換の場となっている。また、奨励賞作品の選出作業を通して作品の見方や造形活動の在り方について研修を深める場はとても有効である。

### 2. 各事業の成果

#### (1) 造形部研修会 (7月29日)

アトリエももさだをを会場に秋田県造形教育セミナーに本荘・由利造形部員が参加するという形で今年度は夏の研修会を実施した。今後の図工・美術の授業に生かせる講演と実技の研修であった。千葉大学教育学部教授 佐々木 達行先生の講演「人間教育としての図画工作・美術か授業の創造」はとても参考になるお話だった。午後からの実技研修も今後の図工・美術の授業に生かせる楽しく有意義な実技研修であった。

#### (2) 本荘由利児童生徒美術展 (11月18日～21日)

本荘文化会館地階会議室で開催した。テーマ「描くこと・つくることが大好き」を反映した個性豊かな作品が多く見られた。昨年同様、立体作品の充実には目を見張るものがあった。

昨年度から出品作品の中から造形部がめざす作品を「奨励賞」として選出した。各部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容共により充実した展覧会となった。これまで会場として使用していた本荘文化会館地階会議室での展覧会も今年度で最後である。来年度からは由利本荘市文化交流館「カダーレ」での開催となる。展示方法など大きく変わるようになるが、地域へのアピールなどこれまで以上がんばらなければならないと考える。

#### (3) 造形部研修会(12月5日)

本荘文化会館地階会議室にて県児童生徒美術展平面の部、本荘由利公開審査会として行った。本年度も月曜日の実施となったが、各校の協力によりスムーズに審査を進めることができた。

造形部員にとっては、児童・生徒の絵について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ情報を得ることができた。

#### (4) 本荘由利小中学校の図工・美術の研究授業への参加

造形部研究部長より本荘由利の小中学校における年間の図工・美術の研究授業（要請訪問・教科等指定訪問）の一覧表が造形部員に配布される。

一覧表を見て造形部員が希望する授業を参観するようにしている。分科会の参加も可能な限りするようにしている。

組織 会長 小原 靖 (千屋小学校)  
 副会長 小林 高太郎 (角館中学校)  
 事務局 高橋 涼 (大曲中学校)  
 会計 武田 淳子 (大曲中学校)

門脇 伸子 (生保内中学校)

## 主な事業

### ○夏季研修会

「子どもの造形的な発達と、  
 授業の進め方や支援の工夫について」  
 ～秋田大学 長瀬達也准教授を  
 お招きして～

期日：8月9日 (火)

場所：大仙市ふれあい文化センター

1階研修室

内容：講話・実技研修

初めに「子どもの造形的な発達」についての講話。明治ころからの県内の貴重な図工の資料を紹介していただきました。



当時は子どもの作品に対して細かく指導し、上手に書くことを重視していたのがわかります。現在の方向性の違いが印象的でした。

続いて実技研修は「空き箱を使った工作」。ティッシュペーパーやお菓子の空き箱の内側にいろ



んな材料をはりつけて不思議な世界を作り、のぞき窓をあけて見て楽しむというものでした。もちろん会員はみんな無言

でものづくりに熱中。発達段階や学年に関わらず表現の幅が広げられる題材なので、授業作りのヒントになったのではないのでしょうか。

### ○第43回大曲仙北児童生徒美術展

11月4日 (金) 搬入・展示・審査

11月5日 (土)～6日 (日)

児童生徒美術展

会場：大仙市大曲交流センター

	平面	立体	自由	合計
小学校	535	89	31	655
中学校	165	52	73	290
合計	700	141	104	945

毎年、この展覧会を楽しみにしている児童・生徒、ご家族の方々がおり、今年も盛況の内に終えることができました。

小学校の作品ではのびのびとして大胆な構図の作品や様々な題材を利用した作品が多く見られ、刺激になった。中学校では時数の関係もあるが、短時間での題材が多くあったが豊かな発想からのびのびと表現されている作品が目立った。

会場の関係で短期間での開催となってしまった。児童生徒はもちろんだが我々指導する立場から見ても様々な材料、技法の工夫が見られ有意義な展覧会であった。

## 研究会の記録

今年度は教科研究会がなかったが、夏季研修等を通して有意義な研修ができたと思う。人数が少ない会ではあるが、来年度の美郷大会に向けて授業を見合う機会や材料開発を共有化できるような活動を増やしていきたい。大曲仙北造形教育研究会のテーマである「思い豊かで楽しくてたまらない造形教育」を求めて様々な活動に取り組んでいきたい。

組織 会 長	木 村 芳 孝	校長 (横手南小学校)
副 会 長	黒 澤 正 尚	校長 (旭 小 学 校)
副 会 長	柴 田 薫	校長 (吉 田 小 学 校)
研究部長	伊 藤 美 枝 子	教諭 (平 鹿 中 学 校)
監 事	奥 秀 輝	教頭 (十文字第一小学校)
	草 彌 昇	教諭 (十 文 字 中 学 校)
事務局	高 橋 輝 樹	教諭 (大 雄 中 学 校)

## 主な事業

### 【つくってあそぼう交流会】

場所：旭ふれあい館

横手市教育委員会、横手市子ども育成連合会主催の行事「つくってあそぼう」では、「オリジナルキーホルダー・マグネットをつくろう」を企画した。たくさんの児童生徒が来館し大盛況だった。 (9/10)

### 【第37回横手市児童生徒美術展】

場所：横手市交流センターわいわいぷらざ

第37回横手市児童生徒美術展では、各校から工夫された力作が勢揃いだった。会員の協力のもと、無事展示会が終了した。その後の審査も滞りなく行われた。小学生の立体作品は、パワフルなものが多く感じられた。中学生の作品もオリジナリティーあふれるものばかりだった。 (11/28)

## 研究会の記録

今年度は第37回横手市児童生徒作品展が中心となる活動だった。横手市で取り組んでいる「言語活動の充実」をテーマにした研究会も行われ、研修会も実り多く、今後につながる一年だった。横手市児童生徒美術展は初めて横手市交流センター「わいわいぷらざ」を会場に行われ、大勢の来館者で賑わった。また、9月には「つくってあそぼう」という横手市教育委員会、横手市子ども育成連合会主催のイベントに、造形教育研究会のブースを設け児童や園児と造形活動を行い、ふれあいを深めながらつくる楽しさを味わった。来年度を最後に統合される中学校もあり、生徒数の減少が懸念されている。しかし、造形のよさを広げ、研究会や展示会を活性化し、生徒の造形に対する意欲をさらに高めることができるよう働きかけていきたい。児童生徒一人ひとりが完成の喜びを味わい、感性のおもむくままに最高の作品を作ってほしいと願っている。



組織 会長 芦原清巳 (東成瀬小学校)  
 副会長 佐藤義昭 (田代小学校) 加藤久夫 (東成瀬中学校)  
 事務局 三浦秀巳 (三梨小学校) 長雄義明 (山田中学校)  
 井上晴子 (川連小学校)  
 会計 三浦秀巳 (三梨小学校)

## 主な事業

・ 郡市教育研究会総会：研究テーマ、活動計画、役員決定 4/14	・ 第1回役員会：今年度の事業、並びに組織についての素案検討 6/8
・ 郡市一斉研究会：雄勝中学校 9/14	・ 第3回役員会：県美術展及び郡市地方展について 10/25
・ 県美術展審査、地方展開催、撤去 11/30~12/5	・ 第4回役員会：事業の反省、H24年度の計画、会誌「このゆびとまれ」製本2月

## 研究会の記録

### ◎秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地方展

総出品数376点 (小学校271点・中学校105点)

うち120点を本都市の入賞作品として県に推薦した。

今年度の作品は全体的に「多彩な表現方法がみられた。」との講評だった。



### ◎郡市一斉授業研究会

◇授業者：高山真理子先生 (雄勝中学校・3年)

題材名：平和へのアプローチ

～THE ART PROJECT FOR PEACE

指導者：西野美佳 指導主事 (仙北出張所)

授業は本単元のみ構成ではなく、修学旅行や総合的な学習の時間、あるいは学級活動とも関連させて構築されたものだった。一人一人が「平和」ということを意識し、材料や表現方法を工夫して活動していた。授業は単なる作業に終始するのではなく、グループごとに意見交換の場面を設け、個の表現活動を充実させる手立ても講じていた。また特別支援の先生も傍らに寄り添い、必要に応じて個の支援していた。どの生徒も生き生きと活動し、自分の思いを表現しようとしていた。



# 第52回 秋田県児童生徒美術展

期 間：平成23年12月24日(土)～27日(火)

会 場：秋田県立美術館

4日間とも開館時間帯は、10：00～17：00



○主 催 秋田県教育研究会造形部会  
秋田県造形教育研究会

○後 援 秋田県教育委員会  
秋田魁新報社  
A B S 秋田放送  
A A B 秋田朝日放送

秋田市教育委員会  
N H K 秋田放送局  
A K T 秋田テレビ

応募数	平面の部		
	出品総数	4,035点	入賞 1,266点
	推賞	125点	話題作 38点
入場者数	2,527人		

# 話題作一覽

（魁掲載）作品 ～平面の部～

学年	題 名	学校(園)名	氏 名	郡 市
幼保	お話の絵「とうさんはタツノオトシゴ」 ライオンとねずみ	風の子保育園 上宮第一幼稚園	いとう ひなと 渡 部 雛 子	本 荘 由 利 横 手
小1	ひまわりとなかよし ターザンロープとうちゅうのあるふねであそびたいな わたしのひまわり りんごがりにいったよ。	双葉小学校 十和田小学校 象潟小学校 川口小学校	さとう しあん 木 村 たくみ 牧 野 京 花 こんの み お	大 曲 仙 北 鹿 角 本 荘 由 利 大 館 北 秋
小2	海のなかまたち にじ色の魚たち いっしょにあそぼう、ゆめのどうぶつ きょうだいクラゲに出会ったよ。	脇本第一小学校 大阿仁小学校 藤木小学校 大湯小学校	近 藤 恭 鈴 木 公 基 さとう ねねほ なり田 こうや	男 鹿 大 館 北 秋 大 曲 仙 北 鹿 角
小3	夕日の花 カもちのじょ雪車 メロディ ペットボトルの中のお花畑	種平小学校 寺内小学校 水沢小学校 東成瀬小学校	加 藤 綾 音 ささ木 陽 太 嶋 田 裕 齊 藤 光	秋 田 市 秋 田 市 能 代 山 本 湯 沢 雄 勝
小4	星座スズラン、明かりのパレット ひまわりの上でスヤスヤ… 男鹿のなまはげ ぼくは見てるよ	秋田大学附属小学校 淳城西小学校 米内沢小学校 象潟小学校	鎌 田 紗 衣 福 田 鈴 大 沢 涼 太 佐 藤 広 夢	秋 田 市 能 代 山 本 大 館 北 秋 本 荘 由 利
小5	リコーダー練習中 夜の動く城 ふるさとの駅 稲を刈る友達	十和田小学校 有浦小学校 阿仁合小学校 二ツ井小学校	竹 澤 歩 人 工 藤 遼 汰 福 嶋 祥 平 藤 田 颯 介	鹿 角 大 館 北 秋 大 館 北 秋 能 代 山 本
小6	深まる秋に奏でる鳳凰太鼓 登校の時の見慣れた風景 そびえ立つ長慶寺の門 トルコギキョウ	長木小学校 鷹巣東小学校 淳城西小学校 天王小学校	小 畑 諒 悟 日下部 千 華 兜 森 瑞 希 杉 本 初 陽	大 館 北 秋 大 館 北 秋 能 代 山 本 潟 上 南 秋
中1	手遊びをしている友達 美術室の棚 『微笑み』 創作文字〈狐〉	勝平中学校 東雲中学校 東成瀬中学校 増田中学校	深 澤 芽 衣 武 内 想 佐々木 亘 小 坂 七 彩	秋 田 能 代 山 本 湯 沢 雄 勝 横 手
中2	みち 緊張の瞬間 14歳の自画像「ゴッホへのオマージュ」 「斎の森」の風	秋田西中学校 秋田北中学校 稲川中学校 大森中学校	佐々木 瑠 菜 三 浦 翔 太 郎 関 樹 太 田 希	秋 田 秋 田 湯 沢 雄 勝 横 手
中3	街・そして私 天の川 美術室の片隅 画材に囲まれた自分	男鹿北中学校 秋田大学附属中学校 八郎潟中学校 八竜中学校	安 田 菜 々 椎 名 朱 莉 相 馬 菜 美 吉 田 大 成	男 鹿 秋 田 潟 上 南 秋 能 代 山 本



# 平面の部/話題になった作品

## 幼稚園・保育園



お話の絵「とうさんはタツノオトシゴ」  
風の子保育園 いたう ひなと



ライオンとねずみ  
上宮第一幼稚園 渡部 雛子

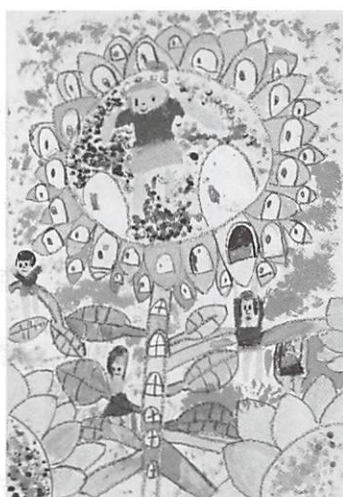
## 小学校作品



ひまわりとなかよし  
双葉小学校 さとう しあん



ターザンロープとうちゅうのあるふねであそびたいな  
十和田小学校 木村 たくみ



わたしのひまわり  
象潟小学校 牧野 京花

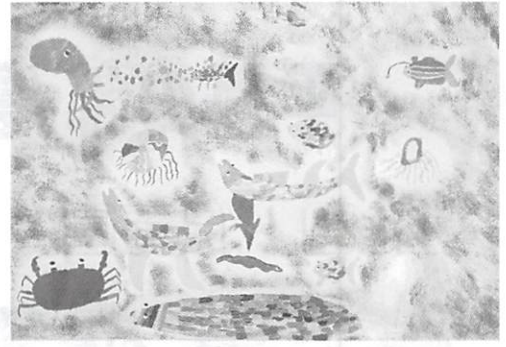


りんごがりにいったよ。  
川口小学校 こんのみお



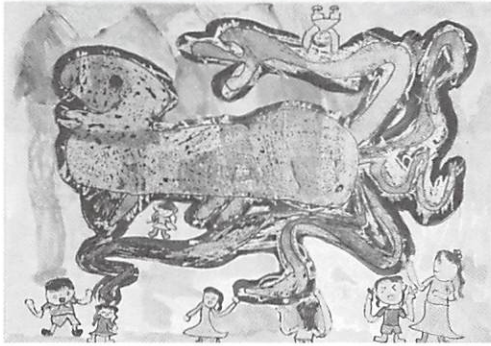
海のなかまたち

脇本第一小学校 近藤 恭



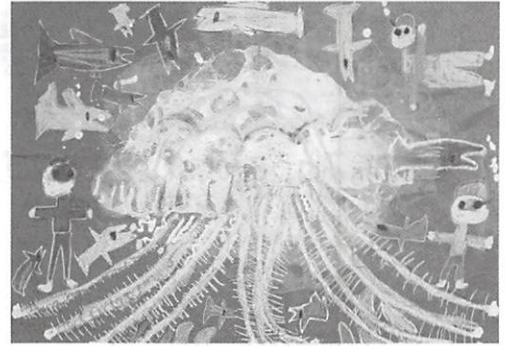
にじ色の魚たち

大阿仁小学校 鈴木 公基



いっしょにあそぼう、ゆめのどうぶつ

藤木小学校 さとう ねねほ



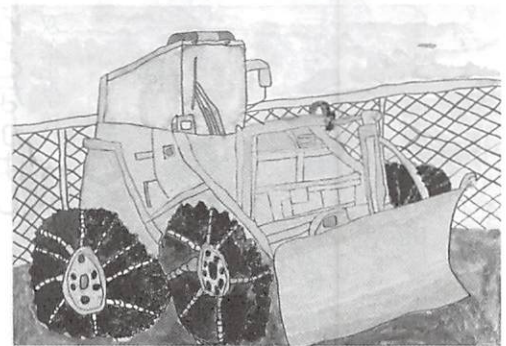
きょうだいクラゲに出会ったよ。

大湯小学校 なり田 こうや



夕日の花

種平小学校 加藤 綾音



カモちのじよ雪車

寺内小学校 ささ木 陽太



メロディ

水沢小学校 嶋田 裕



ペットボトルの中のお花畑

東成瀬小学校 齊藤 光



星座スズラン、明かりのパレット  
秋田大学附属小学校 鎌田 紗衣



ひまわりの上でスヤスヤ…  
淳城西小学校 福田 鈴



男鹿のなまはげ  
米内沢小学校 大沢 涼太



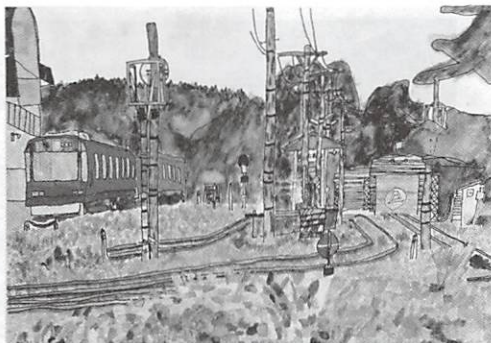
ぼくは見てるよ  
象潟小学校 佐藤 広夢



リコーダー練習中  
十和田小学校 竹澤 歩人



夜の動く城  
有浦小学校 工藤 遼汰



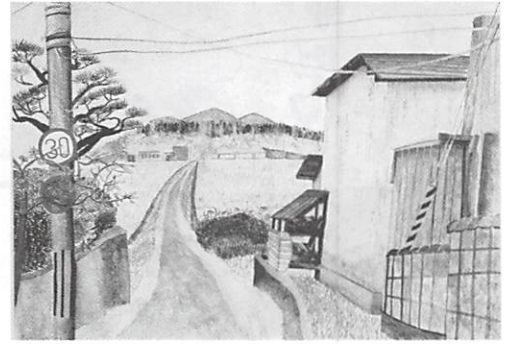
ふるさとの駅  
阿仁合小学校 福嶋 祥平



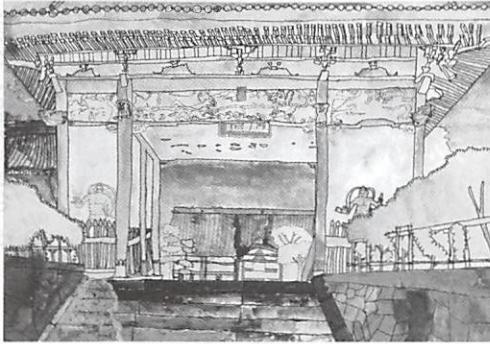
稲を刈る友達  
二ツ井小学校 藤田 颯介



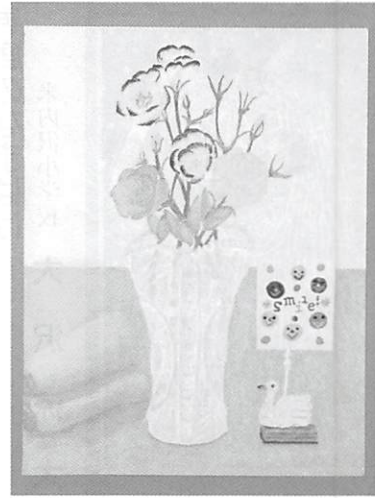
深まる秋に奏でる鳳凰太鼓  
長木小学校 小畑 諒 悟



登校の時の見慣れた風景  
鷹巣東小学校 日下部 千華

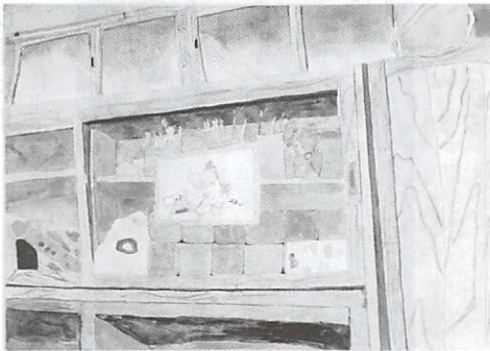


そびえ立つ長慶寺の門  
湊城西小学校 兜森 瑞希



トルコギキョウ  
天王小学校 杉本 初陽

## 中学校作品



美術室の棚  
東雲中学校 武内 想



手遊びをしている友達  
勝平中学校 深澤 芽衣



『微笑み』  
東成瀬中学校 佐々木 亘

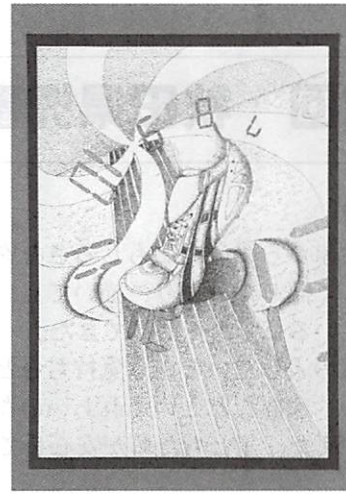


創作文字〈狐〉  
増田中学校 小坂 七彩



みち

秋田西中学校 佐々木 瑠菜



緊張の瞬間

秋田北中学校 三浦 翔太郎

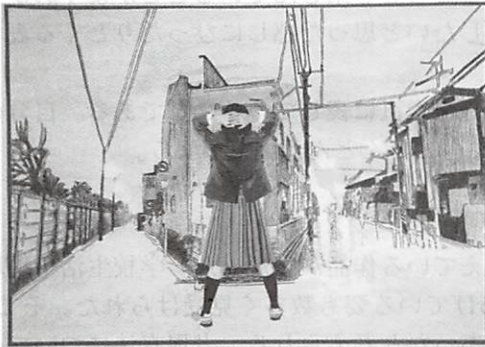


14歳の自画像「ゴッホへのオマージュ」  
稲川中学校 関 樹

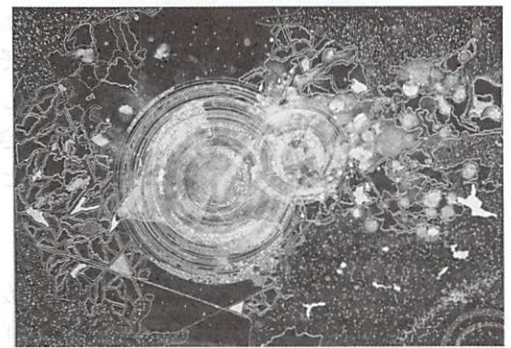


「斎の森」の風

大森中学校 太田 希

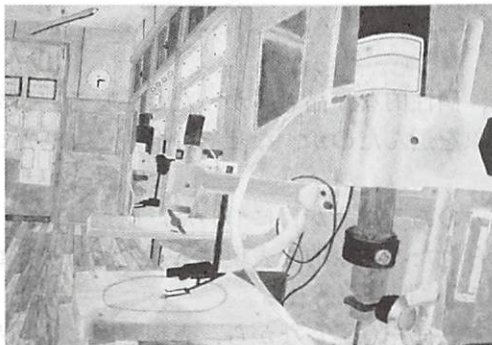


街・そして私  
男鹿北中学校 安田 菜々



天の川

秋田大学附属中学校 椎名 朱莉



美術室の片隅  
八郎潟中学校 相馬 菜美



画材に囲まれた自分

八竜中学校 吉田 大成

## 第52回 秋田県児童生徒美術展 総評「平面の部」

### 【幼・保の部】

描きたい対象から受けたおもしろさをダイナミックに表現している作品が多く見られた。また、描きながら対象に優しく語りかけたり、描いて見つけたおもしろい形や色を繰り返したりと、表現活動自体を楽しみながら行っている様子も伝わってきた。

子どもたちの表したいという気持ちをどんどん大きくしようという指導観も感じられた。子どもたちが身の回りのものや家族などとのふれあいのなかで生まれた驚きや気づきを大切に受け止めながら指導している様子もうかがえた。子どもたちが安心して表現を楽しめる環境づくりをこれからも継続して行ってほしい。

### 【小学校低学年の部】

子どもたちが心を解放させ、対象から受け止めた感じを自分のテーマにして、のびのびと表現している作品が目をつけた。表現しながら自分なりの技法を見だし、夢中になって表現している姿も思い浮かぶ作品が多かった。また、描きながら次々と発想を広げ、自分のテーマを深めている作品は、見る側を強く引きつけた。子どもたちが描くうちに見いだした画面構成、線の表情、色の美しさ、などに自信をもって表現している様子も画面からしっかり伝わってきた。

いろいろな題材や多様な描画材や技法を提案し、子どもの心を引きつけようとしている熱心な指導をこれからも期待したい。

### 【小学校中学年の部】

対象を見つめ、感じ取ったことから思いを広げ、自分がかきたいと思ったことをじっくりと表現している作品がある。また、「こんな世界があったらいいな」「こんなことができたらいいな」という思いから空想を広げ、のびのびと表した作品もある。

水彩絵の具を使って、色を混ぜたり重ねたりしながら着色することを楽しんでいることがよくわかる。さらに、様々な表現のおもしろさにふれ、その中から自分が表したいと思った感じにぴったりとくる表し方を選んだり、組み合わせたりしながら表現している。

大切なのは、自分がきれいだな、すてきだなと思った気持ちを素直に表してみることである。自分の思いを形や色などを通して表すことが楽しいと感じられるよう、気軽にどんどんかいてみよう。

### 【小学校高学年の部】

観察したり、思いをめぐらせたりしてから発想や構想を考えている作品が多かった。学校生活や地域の中にある心を動かされたものから、主題を自分なりにつくりあげている姿も数多く見受けられた。そこには、指導にあたられた先生方の熱心で経験に裏打ちされた指導があったと考えられる。表現方法についての指導も行き届いている。高学年に至るまで積み重ねられたものを子どもたちが十分に活用していた。

人物画については、一瞬の動きをよくとらえて、よく表現されていた。色もていねいで思いが込められていた。いろいろな題材に取り組んで、子どもたちが楽しんで表現しているのが伝わってきた。

### 【中学校の部】

中学校1年生になると、様々な題材やテーマが出てくるが、個性的な作品も多かったと感じる。目の前の対象を見て、ただ形や色を写し取るだけでなく、なぜその対象を選んだのか、なぜその形や色にしたのか強く表れてくる作品が目をつけた。

中学校2年生になると、作品のテーマがはっきりし、構成力のある作品が目についた。風景画には「○○な描き方をしよう」という個性たっぷり注ぎ込んだものが見られた。抽象的な表現にも意欲的にチャレンジしていると感じる。表現方法も多様化してきており、今後の作品に期待を感じる。

さすがに3年生ともなると、自己テーマを深く練り上げ、主と従を意識しながら、表現意図に応じた技法や造形要素を効果的に用いている作品が多かった。特に、話題作は思わず見入ってしまう作品や、画面の中の世界に引き込まれている作品など、心憎いほど魅力的な作品がそろった。

---

研究の記録

---

# 第44回秋田県造形教育セミナー

「造形教育を通じた人間教育」

第44回秋田県造形教育セミナーは平成23年7月29日（金）秋田公立美術工芸短期大学アトリエももさだ、附属高等学院を会場に70名を超える参加のもと開催されました。

東北造形教育研究大会秋田大会を翌年に控え、造形教育で人を育てることの意味を改めて問い直すために「造形教育を通じた人間教育」というテーマを設定し、講演講師には千葉大学教授の佐々木達行先生をお招きして行われました。

10:00～ 10:30	10:30～ 12:00	12:00～ 13:15	13:15～ 16:00	16:00～
開 会 行 事	講 演 「人間教育としての図画工作・ 美術科授業の創造」 千葉大学教授 佐々木達行 先生	昼 食	コース別研修 A 紙の造形—球体に明かりを灯す— B 縄文人の祈りを込めた人形（土偶） C 表現材料としての割り箸を使った二つの授業デザイン（構成） —「造形遊び」と「つくりたいものをつくる」の授業演習を通して—	閉 会 行 事

午前の佐々木先生の講演は、学習指導要領にある「養う」「培う」という文言の解釈から始まりました。そして造形教育には「造形の教育」として「養う」べきものと、「造形を通じた教育」として「培う」べきものがあること、さらにそれらを実際の授業としてどのようにデザインするかについて講演していただきました。

午後のコース別研修は3つのコースに分かれて実施しました。

## 【Aコース】

紙の造形 —球体に明かりを灯す—

講師 花田 恵 先生（作家 「ATELIERはなた」主宰）

色画用紙を主材料にして、紙にこだわった表現の追求

## 【Bコース】

縄文人の祈りを込めた人形（土偶）

講師 大木 義則 先生（作家 「金成工房」主宰）

土粘土の基礎的な技法を習得と、新素材の体験

## 【Cコース】

表現材料としての割り箸を使った二つの授業デザイン（構成）

—「造形遊び」と「つくりたいものをつくる」の授業演習を通して—

講師 佐々木達行 先生（千葉大学教育学部 教授）

材料が同じで異なった授業デザインの意味と方法を考えていく演習

暑い最中のセミナーでしたが、専門性を高める上で貴重な研修の場となりました。ご指導いただいた先生がたや、運営にご協力いただいたスタッフの皆様にはこの場を借りて改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。



## 講演

### 演題「人間教育としての図画工作・美術科授業の創造」

千葉大学教育学部教授 佐々木 達行 先生

小学校図画工作科の目標には「…造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」とあるが、「培う」と「養う」を使い分ける理由はどこにあるのだろうか。それは図画工作・美術科の資質・能力には「教えられること」と「教えられないこと」があるからである。造形的な知識や技能は「教えられる」。だが例えば感性は「教えられない」。だから教師が環境を整えて子どもに「培う」のである。

自分も以前、構成主義的な見地から教師による題材提示型の図画工作科授業に物足りなさを感じた時期があった。そこで図画工作科で育てたい資質・能力を分析し、それに対応した「題材」と「単元」を開発、年間指導計画を組み直して実践を行った。その後「単元」は新たに導入された「総合的な学習の時間」に吸収されるかたちで消滅することとなったが、アプローチの仕方こそ違え考え方は似たようなものだと思う。未曾有の大災害や少子高齢化、国家的財政危機という重い課題がのしかかる現代にあつて、「絵の描き方やものの作り方など、造形の知識や技術を教える教育」に止まらない「造形教育活動を通して子どもに人間としての精神的な自立を促す教育」すなわち人間教育としての図画工作・美術科授業が求められている、というのが氏の主張である。

では、そのための方法論はどうあればよいのか。講演では授業デザインの基本的な内容要素として次の5つが示された。

- 表現対象（人物、生活、自然、空想、造形・オブジェ 他）／主題（自分自身、造形感覚・感性、思想・心情・価値観、造形技法 他）
- 表現材料（自然材料、自然加工原材料、人工材料、加工既製品 他）／素材／造形要素
- 表現形式（平面、立体、絵画、彫塑、デザイン、工作・工芸、映像 他）
- 表現様式（具象、抽象、写実、装飾、古典、キュビズム 他）
- 表現技法（表現技法、材料技法、用具技法 他）／用具／知識

そしてこれらは「子どもにどのような資質や能力を教え、育てようとしているのか」によって「各自が主体的に発見、選択、決定、追究（思考、判断）、表現しようとする資質や能力を育てるためのハードル（抵抗）にすることができる」。このような教師による授業の環境設定が「授業デザイン」なのである。

東北大会を契機としてさらなる授業力の向上を目指したい私たちにとって、今後の方向を示す示唆に富んだ講演であった。

（小野 哲）

## 「紙の造形」～球体に明かりを灯す～

講師 花田 恵 先生  
(Atelierはなた 主宰)

### 1 「紙の造形」コースについて

Aコースでは、紙をメインの素材としたオリジナルな造形作品を手がけ、仙北市田沢湖に「Atelierはなた」を主宰する、花田恵先生を講師にお迎えし、ランプシェードの制作に取り組んだ。

会場には、先生の作品が並べられており、素材の特性を生かした温かみのある作品を参加者は興味深く見つめていた。



### 2 実技の実際

実技のテーマは、球体に明かりを灯すというものであったが、前もって先生の方で型紙を準備してくださっており、それを組み立てていくという形で進められた。また、電源にはボタン電池で点灯するキャンドルライトを用いた。

始めに「蛭」と「星座」の2種類の中からモチーフを選び、型紙を切り抜いていった。



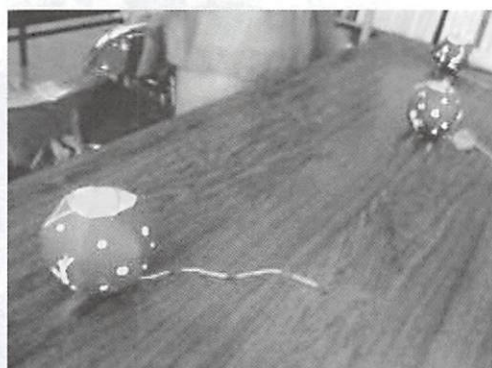
次にその型紙にあらかじめ描かれたモチーフの切り絵を施していき、それを組み立てた後に下方にモビールを吊して完成となった。

およそ2時間半の制作時間の間、細かい作業が続いたが、参加者は皆集中して取り組み、思い思いのモビールを吊して完成させ、満足そうであった。

全ての作品が仕上がったところで室内を暗くし、明かりを灯すと会場内は幻想的な雰囲気になり、参加者からは感嘆の声が上がっていた。

### 3 おわりに

参加者からは、「作るのも楽しく、完成作品はとてもきれいで、是非授業に生かしたいし、生徒の喜ぶ顔が目につくようだ。」「紙の可能性を感じたし、もう一度作りたいと思った。生徒にもそういう思いをもたせたいと感じた。」といった感想が寄せられた。また、最後に先生から「大人になるにつれ、いい意味での遊び心というものが失われてしまいがちになるが、「楽しく」、「ときめく」、という気持ちを大切に、常にときめき感をもって物事に取り組んで欲しい。」という言葉を受けた。



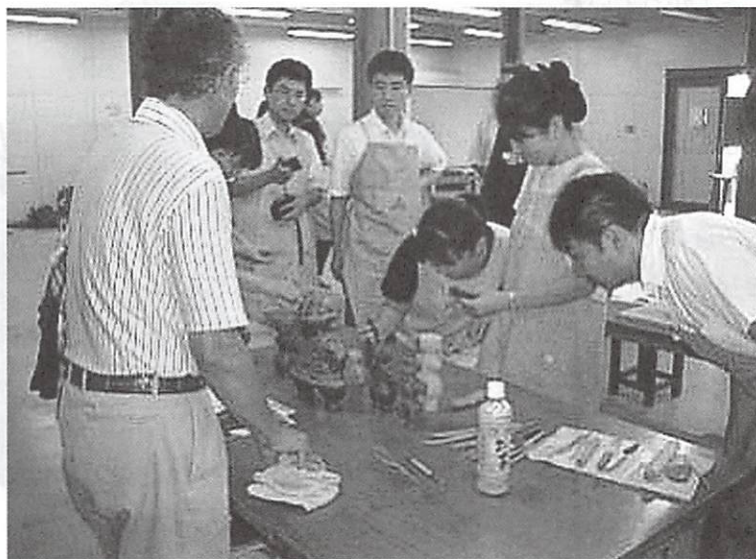
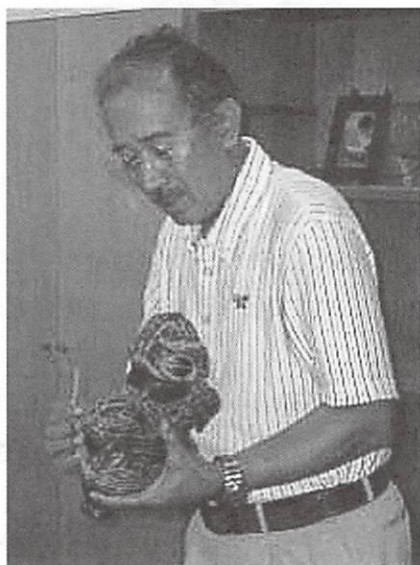
授業実践のヒントを頂くだけでなく、参加者全員の心も癒される、とても充実した研修となった。

(横山 雄一郎)

## 「縄文人の祈りを込めた人形」(土偶)

講師：大木 義則 先生  
(作家「金成工房」主宰)

土偶にも様々なスタイルがあることを、実物や、写真などで、知ることができた。また、土偶の男女の様式の違いや、原始的ではあるが繊細な表現など、実物を通して鑑賞することができた。作る土偶の大きさにより、中を空洞にしなければならないことや、上手く立たせるためのバランスの取り方、足下の作り方などをご指導頂きながら、楽しく制作を進めることができた。土偶のボディに刻まれた独特の縄目模様は広範囲に刻印してから、全体のバランスを見て消していくことなど、つくってみなければ分からないことがたくさんあった。完成した後は、よく乾燥させ、広面小学校で行われる野焼きの時に焼かれるそうで、焼き上がった後の色や風合いの変化も楽しみになった。



(佐藤 未樹)

「表現材料としての割り箸を使った二つの授業デザイン」

講師 佐々木 達行 先生  
(千葉大学教育学部教授)

実技研修Cでは、千葉大学教育学部教授の佐々木達行先生を講師に迎え、材料が同じで異なった授業デザインの意味と方法を、二つの授業演習を通して考えた。授業デザインとは、午前に行われた佐々木先生の講演の中でも詳しく話されていたことで、この講演を受けてから実際に授業を体験することで、講演内容を実感し直すことができるという興味深い内容となっていた。

<p>題材名：「お気に入りの塔をつくろう！」 A表現（2） －割りばしと輪ゴムを使って－</p>	<p>活動名：「つなげる、たばねる、立体的に組み合わせると・・・」 A表現（1） / （2） －割りばしと輪ゴムを使って－</p>
<p>授業目標 ○線材としての割りばしをつなげたり組み合わせたりしながら、輪ゴムで束ね、立体的に構成し、安定した構造をもった塔をつくることのできる。</p>	<p>授業目標 ○「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追求、発見したり、自己表現したりする。</p>
<p>デザイン方法 ○表現対象として割りばしで塔をつくることを提案し、その立体構成や構造についての考え方や技術を示し、間違いなく塔を作り上げることができるよう、段取りを踏まえた教師指導型の授業デザイン。</p>	<p>デザイン方法 ○子ども自らが造形的な表現課題を見出して追求できるように、子どもに「割りばしをどう使って立体的に表現する」の課題を与え、試行錯誤を促した、課題追求型の授業デザイン。</p>
<p>活動テーマ ○題材名「お気に入りの塔をつくろう！」は、表現対象としてバランスのとれたお気に入りの塔をつくることのできることを示したものの。</p>	<p>活動テーマ ○活動名「つなげる、たばねる、立体的に組み合わせると・・・！」は、表現技法と表現形式、つまり割りばしの扱い方と条件を示しながら、子どもの活動を促したものの。</p>
<p>指導・支援に関するポイント ○割りばしを組み合わせた立体的な構成方法を示す。 ○割りばしを組み合わせた構造的に安定した構成方法を示す。</p>	<p>指導・支援に関するポイント ○導入で子どもが材料に関わる時間とって、つなげる、束ねる、組み合わせるなどしながら自分の感じ方を大切にして表現の主題を思い出すことができるようにする。 ○何度も試して表現を追求できるようにする。 ○教師から声をかけるなどして、子どもの考えや表現の意図を引き出すように支援する。</p>

身近な材料である割りばしと輪ゴムだけを使って、同じ材料を使っても、活動が違う面白さを体験できた。佐々木先生の、「造形活動や造形遊びを通して、自分を見つける、自分を確かめる、自己肯定感を高めることが目標なのだ。」という言葉がとても印象的だった。最後には作品を紹介し合うなど和やかな雰囲気が広がり、充実した研修となった。

(菊地 有希子)

## 東北造形教育研究大会に参加して

秋田市造形教育研究会 土門 正 佳

「豊かな創造的活動をもとに学びをつなげる造形教育」との大会主題のもとに行われた東北造形教育研究大会山形大会に参加した。特に「つなげる」というキーワードを主眼におき、研究が推進されていた。幼・保・小・中・高の校種間の連携の中で、系統的に積み上げられていく力に着目することからスタートし、さらに発達段階に即した見方、感じ方の育成、さらにはかかわりからつなげる学びへとこれまで研究を積み上げてきている。そして今大会では、①校種間で学びをつなげる、②子ども同士のかかわりから学びをつなげる、③自分の未来や地域社会、生活環境と学びをつなげる、の3点を柱に公開授業が提案された。谷地中部小で行われた中学校の2授業を参観した。「MY EGG ～木彫で卵をつくろう～」では、素材とのかかわり、生徒同士のかかわりが視点とされ、地域になじみの深い木材について意識させる手立てや、立体造形の要素を理解させるための工夫が随所に見られた。また、「私が美しいと思うもの」(鑑賞)の授業では郷土の写真家である土門拳を取り上げ、地域や郷土、写真という表現方法とのつながりから、生涯にわたって美術に関わってほしいという願いや思いが感じ取れた。どちらの授業も生徒同士のかかわりの場が設定され、かかわり合うことから得られる発見や気づきがあり、あわせて言語活動の充実という点においても効果がみられた。

「学びをつなげる造形教育Ⅰ～かかわりから工夫する～」をテーマにした協議会に参加したが、素材や仲間とのかかわりに、さらに工夫できる形態や効果的な方法は他にないものだろうかという課題を感じた。話し合う、かかわり合うことのねらいや視点を明確にもつことは当然としても、より、生徒が必然的にかかわり合わなくてはならない、またそれによって大きな疑念や感動が生じるような画期的な方法をぜひ今後模索していかなければならないと考える。また、創造活動の発露となり、制作への意欲の支えとなるものは、あくまでも、自分の心とのかかわりが出発点にならなくてはならないものと思う。心揺さぶられる感動体験や、自分自身の思いや願いにこだわってものを創り出す喜び、それら造形活動の出発点となる基本的な部分を見失うことなく、何のためのかかわり合いであるのかを常に明確に位置づけ、かかわり合いのためのかかわり合いにならないようにすることも重要であると考えさせられた会であった。

# 造形遊びを楽しむ

## ～全国図画工作科研究大会 in 北海道に参加して～

秋田市造形教育研究会 齋藤 知佳子

### 1 はじめに

平成23年7月26日～28日、札幌市立円山小学校と幌西小学校の2校を会場にして、全国図画工作科研究大会が、研究主題：「わたしをつくる」授業実践テーマ：「あったかいをつなげあう造形活動」で、20の公開授業、40名の先生の提言発表が行われた。公開した20の授業は、「こどものまなざし」、「教師のまなざし」、「みらいのまなざし」の三つの扉からの提言であった。その中で印象に残った公開授業一つと提言発表一つについて紹介したい。

### 2 感動体験を生み出すために

公開授業「ぐるぐるワールド」（小学3年）授業者：札幌市立百合が原小学校

矢野宜利先生

<題材について>

・画用紙をはさみでぐるぐる切って、つるしたり下から上へ持ち上げたりすることで飛び出す仕組み（ぐるぐる）のおもしろさを軸に活動を考える。

<題材の目標>

・表したいイメージをもち、様々な形や色の「ぐるぐる」をつくる楽しさを味わおうとする。  
(造形への関心・意欲・態度)

・形や色、組み合わせによってぐるぐるのイメージが変わることに気づき、より面白い「ぐるぐる」にするための工夫を考えている。(発想や構想の能力)

・様々な形や色の「ぐるぐる」を試しながら、より面白い「ぐるぐる」にしようと表し方や組み合わせ方を工夫している。

(創造的な技能)

・ぐるぐるが飛び出す楽しさを味わったり、形や色、組み合わせによるおもしろさを感じ取ったりしている。(鑑賞の能力)

授業後の分科会では、「一人ひとりのぐるぐるワールドができあがっていたのか。」「A表現の(2)になっていたが、題材の目標や流れからすると表現の(1)で流れをつくるべきではなかったか。」「学び合い、かかわりあっている姿がなかなか見えなかった。」「どんな世界を子どもたちがイメージしているのかななどのことを指導者はイメージできていたのか。」など、厳しい意見がたくさん出された。

#### 1. 題材計画 (全4時間・本時3・4/4)

子どもの活動	
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">白画用紙をぐるぐる切ると飛び出すよ!</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">どんな形に切ると面白いかな</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">まるまる・もこもこ・ガタガタ・ギザギザ・ハート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">～みたい!この形は～の感じがする!</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おもしろい形の「ぐるぐる」ができたよ!</div>
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「ぐるぐる」に色がつくよ!</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">この色で「ぐるぐる」をつくりたいな</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">～のイメージにしたいからこの色!</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">この色が～の世界みたい!</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">色があると「ぐるぐる」がもっと面白くなったよ!</div>
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">上と下をつなげられるよ!</div>
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">どうつないだら面白いかな?</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">上と下をこの形にしてみたい!</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">この色で「ぐるぐる」をつくるよ!</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">この形や色を組み合わせると面白そうだよ!</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">～の世界にしたいな!</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">友達のも面白いな! つなげるともっと面白くなったよ!</div>

このような意見がたくさん出された理由は、題材の目標と題材計画のねじれが起きていたためではないかと考える。

授業後の分科会で話題になった学習指導要領のA（そこで、造形遊びについて考えてみたい。造形遊びは、造形的な遊びとして昭和52年版小学校学習指導要領図画工作科低学年に登場して以来、約10年ごとの改訂において材料や場所にかかわった活動として、「造形遊び」（平成元年度版）「楽しい造形活動」（平成10年度版）「造形遊び」（平成20年度版）と名称が変化した活動の総称である。これは、造形教育センターのデザインや工作を核とした教育理念と大阪Doの会の活動が、昭和45年前後の時代状況を受け、美術教育を根源的に問い直そうとしたものであった。Doの会の〈Do宣言文〉（1978年）は次のようなものである。

「美術教育は子どもを行為に駆り立てるものである。造形活動は行為に発し、行為に終わる。/色や形による表現は、今日風化していると言える。/美術教育は、現実に向かい合う力を培うことであり、色や形で子どもを縛るのではなく、行為するエネルギーをコントロールすることができる力を獲得させることである。それは、机からの解放を意味し、「環境」や「もの」に目を向けさせることである。/美術教育は、明日に役立たない教育である。活動の無目的、色や形に対する無制限、従来の絵画感に対する無価値・無意味なものの中に子どもの興味・関心を見いだすことである。/我々は、指導者であるよりも時間・空間・場・素材の提供者でありたい。」

昭和52年版以降、関連書籍による活動は広がりを見せるものの「子ども本来の生き生きとした姿を取り戻すために遊び性を生かす」という設定理由や「材料や場所に関わる体験を核とした全身的な造形活動、発想や連想を豊かにし、その過程の楽しさを味わう活動」「構成遊び的な活動」という3つの、いわば〈活動要素・性格〉は基本的に現在に至るまで一貫しているといえる。

平成20年度版学習指導要領において、文部科学

省は、児童の造形表現活動（A表現）を次の二つに分けて設定した。

A表現

(1) 材料や場所などに働きかけることから始まる活動【A(1)】

(2) 自分の表したいことを基に、これを実現しようとする活動【A(2)】

このように、出発の時点で明確な目的や方向性あるか否かで分けている。つまり、造形遊びは、主題や内容があらかじめ決められたものでなく、児童が材料や場所などで出会い、それに触れあうなどして自分で目的を見つけて発展させていく活動であり、結果的に作品になることもあるが、はじめから作品をつくることを目的にしない。それに対して、表現のA(2)は、テーマや目的、用途や機能などに沿って自分の表現を追究していく性質をもっている絵、立体、工作などに表す活動であり、A(1)とA(2)には、性質上大きな違いがある。

本題材の「ぐるぐるワールド」に立ち戻ってみる。表現A(2)の領域としながらも、一人一人が目的をもって活動したり、つくりたいもののイメージしたものをはっきりさせていくという授業展開はされなかったことが、表現のA(1)ではなかったかという違和感につながってしまったと考える。さらに、題材名の「ぐるぐるワールド」、目標の「イメージが変わることに気付き」「ぐるぐるを試しながら」などのような言葉が、造形遊びの特質である自分の思いに沿って試みる自由さ、能動性をかき立てるものであるにも関わらず、授業の構成のなかでは、おざなりにされてしまったような感を持ってしまったのではないかと考える。また、「ぐるぐる」と初めて出会った段階で、一人一人が自分の表したいもののイメージをもつことができるのか、やりながら考えるという方法のほうが造形的な楽しさにつながるのではないかと感じ

た。題材の流れも「ぐるぐる」を下げる位置や方向、紙の色、組み合わせ方など、全て子どもたちに任せてみることににより、「わあすごい」「もっともっとやってみたい」「見て、おもしろいよ」などといった、造形的な面白さや美しさに感動している子どもたちの姿を生み出すことができたのではないかと考える。

「造形遊びは、難しくて、自信が持てない」というような声も時々聞く。この不安や迷いは、ともすると学習指導要領の内容の表現のA(1)とA(2)のとらえの曖昧さから生じていることもあるかもしれない。造形的な感動体験を一人一人の子どもが自分自身の手で作り上げていくことができる造形遊びの学習、子どもと一緒に色や形、美しいもの、おもしろいものに触れ、感動を共感できる、そんな図工の時間をつくっていききたいという気持ちを一層強くすることができた。

### 3 子どもを中心にした授業づくり

提言授業：「空間モザイク」

提言者：東京都板橋区高島第五小学校

大畑祐之先生

<題材の設定理由> プラスチック性の段ボール箱を運んでいるときに、絵の具でかかれた模様をみつけた子どもの「わあ、きれいの歓声を聞き、子どもたちの見つけた美しさやおもしろさを題材化してみようと考えた。

大畑先生は、長年、題材開発をライフワークとしてきた先生であるが、「子どもに感動のある体験活動させる」ということを授業づくりのポイントにしなが研鑽を積んでこられたことを感じた。「〇〇の材料で、◎◎をつくらせる」というような教師主導の題材ではなく、「この材料で、こんなおもしろさ、美しさに子どもたちと出会わせたい」という、教師の揺らぎないねらいを定めていくことの大切さも教えて頂いた。「子どもを中心にした授業づくり」ということがよく言われているが、この視点こそが、そこにたどり着くための重要事項になるとも思った。また、プラスチックの板を「並べる」という行為を通して、自分の感じた美しさや面白さが変化していくことや気付いていくことが自然な形で積み重なっていく題材の構成力のすばらしさにも感動した。

学習の自然な流れの中で、子どもたちが教師が設定したねらいに迫っていく。このためには、「しかけ」が大事になっていく。「どんなしかけ」を「どこにしかけていくか」ということが図工の授業の最重要ポイントだと、大先輩から何度も聞いてきた。大畑先生の提言発表を聞きながら、この「空間モザイク」の題材には、この「しかけ」が子どもには気付かれぬように巧妙にしかけられていた。「子ども中心に題材をつくる」ことによって学習の中で子どもたち自身が見つけた新しい感覚や気付きが、流水が土にしみ込んでいくように自然に子どもたちの全身にしみ込み、動き出していくような確かなしかけがあったように思う。目の前にいる子どもたち一人一人の感性を引き上げていく授業づくりのために努力していきたいという思いを強くした。

<参考文献>

- ・小学校学習指導要領解説 図画工作編  
平成20年8月31日 初版
- ・美術科教育の基礎知識  
2010年 四訂版 建帛社





平成24年度 第57回東北造形教育研究大会秋田大会  
第39回秋田県造形教育研究大会秋田市大会に向けて

テーマ

生きる輝き、つくりだす喜び ～内面から湧きあがる造形活動を求めて～

一心に造形活動へ向かう子どもの姿からは、子どものもつ造形的な資質や能力が自然に発揮されていることが見て取れる。生き生きとつくる様子は、見て感じ取り、考え、工夫する力が働いていること、そして何よりも、自らつくりだす喜びを味わっていることを示している。自らの思いで表現する子どもの姿である。それは自己の存在を強く感じながら、新たな世界に向かう楽しさを味わうことでもある。そこには、その子どもの生きる輝きがある。

このような造形活動を進めるものは、内からあふれ出てくる表現への意欲であり、また、様々な感性を働かせて行われる造形活動そのものである。つくりたいという気持ちが、材料に触れ発想し形にしていく過程で膨らみ、追求する意欲を高め活動を進めていく。また、表現及び鑑賞、作品、他者や社会とのかかわりなど造形活動全体を通して改めて自己を確かめることは、よりよいものを求め、よりよく生きることへとつながっていくものであろう。

このように子どもが自ら求め、内から働かされる造形活動の姿を求めたいと考えて、研究テーマを「生きる輝き、つくりだす喜び ～内面から湧きあがる造形活動を求めて～」とした。

研究テーマを踏まえ、「材料や人とのかかわり交流する中で、つくる喜びを味わい、表現に没頭し深化・展開させながら表現したいもの（テーマ）に向かって造形活動しつづける子ども」を目指す子どもの姿とした。自分と表現したいものを取り巻く様々なものとかかわり、よりよい表現に向けて進み続ける中で、つくる喜びを味わっていく姿を目指したい。

研究の仮説は「感動をよぶかかわりをつくり出せば、よりよい表現を求めようとする意欲が高まり、子どもに豊かな情操を養うことができるのではないか」と考えた。子どもは自分を取り巻く様々な「人」「もの」「こと」とのかかわりの中で影響し合いながら、造形活動を行っている。個の表現を高めていく上で他とのかかわりは大きな意味をもっている。そこで、心を揺さぶるかかわりをつくることで意欲を高め、そこから試行錯誤しながらもよりよい表現を求めていこうとする意志や心情を育てていくことができるのではないかと考えた。

研究の重点は、感動をよぶかかわりをつくる手立てを考える視点から、重点①身体感覚を揺り動かすような題材の構成、重点②よさや価値を感じ取れるような温かな評価、の2つとしたい。

重点①では、題材の選択や導入の仕方、教師の支援のタイミングなどが内容となる。五感とそれらを統合的にバランスをとる身体感覚を駆使するような造形活動にすることで子どもの表現意欲を刺激したい。重点②では、表現追求のための試行錯誤や自己決定、認め合う関係づくりを内容とする。作品と共に形成的評価として学習活動を捉え、子どもの心に寄り添い、成長を促す温かい評価を行っていきたい。

今年度は、10月に中学校の授業研究会、小学校は11月に造形遊び、絵、鑑賞の3会場に分かれて授業研究会を行い、研修と研修を進めてきている。その中から得られた成果もあり、今後の課題もある。取り組みを確認しながら、平成24年7月の大会に向けて、さらに歩みを進めていきたい。

(榎 美和子)

# 平成23年度 秋田県造形教育研究会 役員

1	鹿 角	石 岡 ひな子	尾去沢小学校	
2	大 館 北 秋	木 村 伸	大館東中学校	副 会 長
3	能 代 山 本	渡 邊 清 彦	朴瀬小学校	
4	男 鹿	桐 生 登志夫	北陽小学校	
5	潟 上 南 秋	長 浜 中	馬場目小学校	
6	秋 田 市	佐 藤 一 彦	秋田北中学校	副 会 長
7	本 荘 ・ 由 利	三 保 知 子	上浜小学校	
8	大 仙	小 原 靖	千屋小学校	副 会 長
9	横 手	木 村 芳 孝	横手南小学校	
10	湯 沢 雄 勝	芦 原 清 巳	東成瀬小学校	会 長
11	会 長	芦 原 清 巳	東成瀬小学校	
12	監 事	加賀谷 政 広	城南中学校	
13	監 事	工 藤 圭 文	港北小学校	
14	鹿 角	海 沼 智恵子	尾去沢小学校	
15	大 館 北 秋	鈴 木 正 樹	鷹巣中学校	
16	能 代 山 本	渡 部 悦 子	能代第二中学校	
17	男 鹿	伊 藤 覚	男鹿南中学校	
18	潟 上 南 秋	都留賀 津 人	天王南中学校	
19	秋 田 市	中 村 紀 幸	勝平中学校	
20	本 荘 ・ 由 利	安 保 純	仁賀保中学校	
21	大 仙	高 橋 涼	大曲中学校	
22	横 手	高 橋 輝 樹	大雄中学校	
23	湯 沢 雄 勝	三 浦 秀 巳	三梨小学校	
24	幹 事 長	小 野 哲	種平小学校	事務局・ホームページ担当
25	副 幹 事 長	黒 沢 淳	泉小学校	
26	幹 事	鎌 田 政 美	外旭川中学校	美 術 展 主 担 当
27	幹 事	田 口 香奈美	広面小学校	造 形 秋 田 主 担 当
28	幹 事	村 山 祥 子	尾崎小学校	会 計 担 当
29	幹 事	榎 実和子	桜小学校	セ ミ ナ ー 主 担 当
30	幹 事	工 藤 敬 子	山王中学校	美 術 展 副 担 当
31	幹 事	今 野 雅 子	勝平小学校千秋分校	造 形 秋 田 副 担 当

**秋田県造形教育研究会事務局**

〒010-1224 秋田県秋田市雄和種沢字戸草沢209

TEL 018-886-2594

FAX 018-886-3231

秋田市立種平小学校

幹事長 小野 哲

